

グループ学習で意欲を引き出す

東京都杉並区立荻窪中学校
宮城 洋之

グループ学習の意義

研究授業を拝見する機会が度々ある。その多くはよく練られた指導案に基づいたものであるが、生徒の学習活動の面から見ると、必ずしも意欲的に授業に参加しているとは言えない場面も目にする。これは授業のねらいや学習内容の問題というよりも指導方法の問題であることが多いようだ。

たとえば教師の発問に対する反応が鈍かったり、課題への取り組みが浅かったりするような場合、グループによる話し合いや討論を取り入れることで授業を活性化することが可能である。

一人の学びよりも、異なる意見をもつ者同士の間から生まれる共同な学び合いを組織すること。これがグループ学習の意義である。

グループ編成のコツ

グループ編成のコツとして次の三点がある。

- ①人数：生徒数や生活指導といった要素にも左右されるが、一グループ四名程度が適切。
- ②メンバー：グループ間は等質、グループ内は異質であることが望ましい。学力差のある生徒同士で編成することによって相互の学び合いを活発にすることができる。

③リーダー：リーダーの存在がグループ学習の正否を握っている。課題を理解し、グループ内の発言や話し合いを指示できる生徒を選びたい。

共同で乗り越えるハードルを

難易度の低い一問一答的な課題では先に述べたような意義を実感させることはできない。グループ学習は集団で取り組む価値のある課題があつてこそ成立する。

たとえばそれは「なぜ王が殺したのは妹婿（賢臣アレキスという順序なのか）（『走れメロス』）」という読みの追究を促す課題であったり、「レ点を付けて訓読できる熟語をいくつかあげられるか」（漢文）といったグループ同士の競い合いを促すゲーム的要素をもつ課題などである。

グループ学習は生徒の学ぶ意欲を引き出すために有効な方法である。時間がかかり過ぎるという意識をもつ方も多いが、ポイントを絞り、計画的に導入することで質の高い学び合いを実現できる。

みやぎ ひろゆき 東京都杉並区立荻窪中学校主幹。
現在の関心はクリティカルな読みの力と論理的な表現力の育成。